

島ヶ原宿MAP



1 二本杭

旧大和街道の藤堂藩(伊賀の国)と柳生藩(山城の国)の境として、元禄12年、江戸幕府の裁定によって、それぞれの杭を合わせて設置されたといわれています。現在は写真のようにどちらも正面を向いて再現されていますが、当時は背中合わせで建てていたそうです。この杭を建てるまでの国境争いは、決着まで3年費やされたと言われています。



3 三社石

「天照大神宮、八幡大菩薩、春日大明神」と彫られており、伊勢神宮、石清水八幡宮、春日大社の三つの神社をまつっています。



2 関所跡

幕末の文久年間(1861~1864)に関所が設けられていました。関門は、山城の国(京都府南郡)と接する伊賀の国側にあり、藤堂藩の番兵が行き来する人を見張っていたといわれています。この辺りには、北向地蔵や観音菩薩、八幡宮通拝所(はちまんぐうようはいしよ)の碑などがあり、山菅地区の信仰の中心となっています。



5 阿弥陀磨崖仏

行者堂のそば。村指定文化財。南北朝から室町初期のものと考えられます。



4 行者堂

岩谷峡の岩谷深くにあり、自然石の岩壁の中にまつられた石刻の役行者(えんのぎょうじゃ)が雄々しい姿を見せえています。江戸時代に大峯山からもらい受けてきたと言われています。



6 丸山陶土部

島ヶ原は全国でも屈指の粘土の産地です。村には4つの粘土水蔵(すいひ)工場があり、陶器やレンガ、衛生陶器の原材料になる良質の耐火粘土を算出しています。奈良の土師の鑄型をつくるのにもこの粘土が使われ、奈良まで木津川で運ばれたと言われています。



14 与右衛門坂

「笠置峠かと与右衛門坂か江戸の峠はなけりやれ」と歌われる大和街道の難所。名称は、藤堂高虎の通称「与右衛門」からとったという説があります。



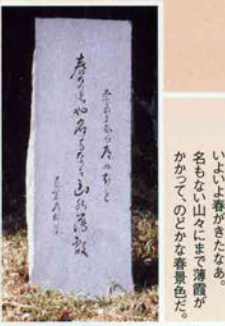
13 峰の六地藏

一体一体の持ち物を変化させ、連台まで刻まれています。室町時代末期の作で村指定文化財。六地藏まで美しい苔に覆われた竹林があります。



9 お茶屋の井戸跡

江戸時代、藩からの補助により無料でお茶の接待をしていたといわれています。当時の井戸が残っています。



8 芭蕉句碑

貞享2年(1685)春、郷里で新年を迎えた芭蕉さんは、春になって奈良へと出立しました。句碑の建つちょうどこの辺りにさしかかった時に詠んだのが、この句だといわれます。のどかな早春の情景を彷彿とさせる句からは、心から旅を楽しんでいる芭蕉さんの姿がうかがえるようです。



10 大神宮万人講燈籠跡

三本松池から東へしばらく行くと、小高くなったところに「大神宮万人講燈籠跡」の碑が建っています。燈籠本体は、上野市長田地区の射手神社にあります。

11 三本松の池

上野市と島ヶ原村との境。静かな水面は旅の心をいやしてくれます。



12 芭蕉の尻もち坂

島ヶ原村川南から三本松へ向かう大和街道の両側には、かつて松の並木がありました。途中、所々急なこう配があり、ここで芭蕉さんが尻もちをついたと言われています。「野ざらし紀行」には、芭蕉さんが貞享2年(1685)に上野から奈良へ向かったことが最初の記録として残っています。

7 旧本陣

諸大名が常宿にしていた伊賀地域で現存する唯一の本陣跡です。宿札や、平面図が残っています。



春なれや
名もなき山の
薄霞
いよいよ春がきたなあ。
名もない山々にまで薄霧がかかるとのどかな春景色だ。



「松平甲斐守宿」と書かれている。松平は大和郡山の藩主。